

音で奏でる 地域の輪

社会福祉法人 放泉会 常務理事 瓜坂 尚之

用者の方々が4曲を披露されました。銀色に光輝くハンドベルを持ち、真剣な眼差しで指揮を見て周りの音を聴きながら、そして歌詞を口ずさみながらの演奏です。

そして、地域の文化祭でも、さわらびシンフォニックバンド（法人の吹奏楽団）が2地区にて演奏をさせていただきました。全国に社会福祉法人は数多くありますが、当法人のように吹奏楽団を結成している法人は放泉会だけではないでしょうか。限られた時間の中での練習で、まだまだ聴くに堪えない演奏ではありますが、日ごろお世話になっている地域の方々への恩返し、音の贈り物になればと思います。

音楽のおもしろさは、色々な人が集まり、異なる楽器、そして色々な音が重なり合って、一つの音楽が作り出されることでしょう。我々の職場のように、多職種が連携、協働して利用者の方を支援する福祉の世界と似ていますね。今後も、仕事と音楽で培っている連携・協働が双方に生かせるよう精進してまいります。

関係下さった皆様のご支援に感謝申し上げます、今後共、変わらぬご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

当法人の特色の一つに「音楽」があります。この秋も、各事業所において、様々な音楽活動を行いました。

敬老会にて、姉妹友好都市の笠岡市の
大正琴グループ琴瑛会（高月喜代会主）
よりご寄贈頂いたハンドベルを使い、利

音で奏でる 成長の喜び

長久町文化祭にて、さんさん組がマーチング出演し、「宇宙戦艦ヤマト」を演奏しました。この日をもって、この曲での演奏は最後ということで、保護者の方も地域の皆様も惜しみない拍手をくださいました。



サンチャイルド祭りや祖父母参観、運動会、敬老会と様々な場面で披露してきたこの「宇宙戦艦ヤマト」。勇壮で、前へと進む勇気が湧き出るようなこの曲は、テンポもよく、マーチングにぴったりと担任が選曲したのですが、5月、この曲に出会った子どもたちは、当然ながら全く聴いたこともない子がほとんどでした。「地球の平和を守るために、宇宙を飛ぶことのできる船がね…」と説明してもなかなかイメージが伝わる訳もなく…。それでも子どもたちはお家で話題にするのでしょうか、「ヤマト、お父さんが知ってるって言った!」「お父さんも大好きだった!」「YOU チューブで見せてもらったらね、すごいかっこよかった!」と口々に話してくれました。というわけで、子どもたちもですが、この曲はなかなか保護者の皆様にも好評でした。（担任とは違い、再放送、再々放送?で知っている人も多いようでしたが…世代間ギャップです）

子どもたちは一生懸命、練習を頑張りました。自由遊びの時間も「太鼓の練習するから出して」と頼んできたり、自主的にピアノ練習をしたり…。夏は炎天下の下、隊形移動の練習もしました。そうやってみんなで長いこと取り組んできて、温めてきたこの曲だからこそ、聴いてくださった皆さんの心を少しでも動かすことができたのかなと思います。文化祭での発表で担任の指揮を見る眼差しは、本当に真っ直ぐで、子どもたちの成長を感じた瞬間でした。今月より、また新曲の練習が始まります。

音で奏でる 生きる喜び



5月のある日、デイサービスセンターさんべからは何やらハンドベルの音色が…。耳を澄ますと、「白地に赤く日の丸染めて…」「君が代は、千代に八千代に…」「うさぎ追いし…」と聞こえてきます。この日は、9月に行われる敬老会に向けて、特訓の始まりでした。最初はまるで合わず、何の曲?と首をかしげる状況でしたが、そこは百戦錬磨の利用者の方々。日を重ねるごとに曲が仕上がってきました。

6月の半ばからは週4日のハードな練習となりましたが、リタイアすることなく全員が熱心に練習に励みしました。

都合により練習が中止となると「今日は有ると思って来たのに…」と残念がられる声も…。

いよいよ本番!発表の日、金の蝶ネクタイをつけ晴れやかな顔で利用者の方は壇上へ…当日はグループホームとのコラボもあり、事前練習無しの初顔合わせでの演奏となりました。職員が不安いっぱいで見守る中、利用者の視線は真っ直ぐ指揮者へ向け、真剣なまなざしで、不安は払拭されました。曲が始まり、日頃の練習が実った心に響く素晴らしい演奏でした。会場からのアンコールにも応えられた利用者の表情には、やりきったという満足感、達成感があふれ、感極まるものがありました。

今回、敬老会での演奏をやり遂げられ、音楽を通して社会参加をすることが出来たことは利用者の方の大きな自信となりました。

今後も利用者の方が社会参加出来ることを模索し、デイサービスの魅力につながるよう取り組んでいきたいと思ひます。



人は心 こころはあい

秋のごちそう いただきます♡

9月は敬老月間であるとともに彼岸や十五夜等様々な行事があります。

敬老の日の食事について話をしたところ、“最近折詰を見なくなったねえ”“あの折箱の削ぎの香りが懐かしいわー”という声を聞きました。ならば食べていただかなくては…ということでさわらび苑栄養課の職員が腕を振ったのでした。

折詰のフタを取った瞬間、「わーっ」という声とともに拍手が沸き起こりました。そこには今にも飛び跳ねそうに身をそらした大きな鯛の蒲鉾が。折箱に入った赤飯の味も格別です。海老や季節野菜の天ぷら、煮物に瓜漬などなど、ノンアルコールも一杯入って、とても満足のひと時を過ごしていただけたようです。

敬老会に続いてはお彼岸のおはぎ。お餅が食べられない方には粥をゼラチンで固めた団子を使って作りました。昼食にお出ししましたが、どなたも真っ先に手を伸ばしたのは言うまでもなく、お・は・ぎ！「毎日でも食べたい」「最高やなー」と嬉しいお言葉が…

そして十五夜は、豆腐を加えて軟らかく、歯切れの良い月見団子を作りました。あいにくこの日は天候が悪く、月をみることは出来ませんでしたが、そこはお約束“月より団子!!”まあいとお団子で月見の気分も味わえたのではないのでしょうか。

食は人を幸せにしてくれます。おいしく食べて笑顔になっていただくことが元気の源につながる…そんな食事を提供し続けたいと思っています。



遷仏法要

さわらび苑移転新築予定地に提供して下さった2軒のお宅の解体工事が迫った10月3日、この2軒のお宅の御仏壇の遷仏法要が、真浄寺、松浦英篤導師により執り行われました。このそれぞれのお宅を見守り続けて来られた御先祖様と大切なお宅を提供して下さることに感謝を込めて、理事長、統括苑長、理事をはじめ、職員も列席致しました。

毎日このお家を見ながら登園していたチャイルドの園児たちも一緒に小さな手を合わせました。この遷仏法要もこれから始まる建築工事の様子も子どもたちの記憶に残ってくれることでしょう。



ゆうイング敬老会

「100歳おめでとうございます」と梶野大田市長からお祝いを受け取られたのは、石橋ノブエ様。ゆうイングでは百歳以上の方が4名おられ、石橋様もめでたく仲間入りされました。「ありがとうございます」と優しいお声で答えられた石橋様。ご家族様も同席され大変おめでたい百歳到達の会となりました。



後日行った敬老会でも改めて百歳のお祝いをさせて頂きました。するとそこには、あの内閣総理大臣である安倍首相が自家用ジェットで去年に続きお祝いの銀杯を届けて下さったり、梶野市長も改めてお祝いに駆けつけて下さったりと、豪華なゲストが…（よく見ると平らなお顔のお二人…体型も同じに見えるな…気のせいとお面じゃないよね…）とは言え、ご利用者の長寿をお祝いすることができました。

ゆうイングでは、余興にSSBのお祝い演奏会が開かれました。聴き馴染みある“演歌メドレー”や心に染みる“花は咲く”など、昨年10周年を迎えたSSBの安定した演奏に、大変盛り上がりお祝いにふさわしい華を添えてくださいました。

今年から趣向を変え、大掛かりなことは出来ませんでしたが、アットホームな雰囲気なかで心を込めて敬老会を行いました。これからもご利用者が喜んで頂ける環境と空間づくりを日々追い求めていきたいと思っています。



グループホームの食

ご利用者の楽しみの一つに「食」があります。9月からグループホームに調理師の資格を持つ職員が配置となり、調理師ならではの専門性を活かし、今まで以上に楽しんで頂ける食事を提供しています。

～ある日の食事を紹介します～

グループホームには新鮮な魚が週1回届きます。利用者の方からの「刺身が食べたい!」「握り寿司もいいよね」の声に応え、刺身・握り寿司・アラ煮等アレンジを効かせ、昼食・夕食にと魚づくしの御馳走が並びます。「おいしかったわあ～、御馳走だったね!」と口々に満足の声が聞かれました。

またある日には、手作り餃子を皆で作りました。「皮から具がはみ出んように上手に包まんと～」「ありゃあ、うまいことならなかったで～」とワイワイしながら楽しくクッキング♪羽付バリバリ餃子は、やや不格好でも格別の美味しさでした。

他にも天気の良い日には、お弁当と塩むすびを持ってハイキング気分で庭で食事を楽しんでいます。

ご利用者からの「ここでの食事が一番の楽しみです!」という言葉に力を貰いながら、専門職と共に“グループホームならではの食”の提供に今後も努めていきたいと思います。



愛は人



がんばれ運動会

運動会に向け、子どもたちは自由遊びの時間も、竹馬・鉄棒・跳び箱など一生懸命に取り組んできました。

中には誘っても「どうせ、あたし、出来んもん」「オレ苦手だし」と練習に気が向かない子も…。でも「とにかくやってみよう!」「挑戦しよう!」をクラスの合言葉に、しぶしぶながら練習し、少しずつコツをつかんでいき、やっとできた時…!子どもが変わる瞬間です。「やった～!!」「オレ、出来んかと思った!」「諦めんで良かった!」「〇〇するのって楽しいね」「夢が叶った!」…その時の子どもの笑顔は本当に輝いています。自分が出来なかったことを自分の力で克服した経験や喜びは、何物にも代えがたい自信になるのでしょう。そして次に向かう勇気とパワーになるのです。その瞬間は何度立ち会っても本当に感動的です。

できるか、できないかだけでなく、その経過も大切にしたいものです。

当日はリレーにパラバールン、戸板のぼり、玉入れ等…。友達と力を合わせて頑張りました。

子どもたちのキラキラと輝いた笑顔が弾けたのは言うまでもありません。



前日おじいちゃん・おばあちゃんとふれあい運動会にて



ドキドキわくわく お泊り保育

子どもたちが親元を離れ、初めて体験するお泊り保育。身の回りのことを自分で行い、友達と助け合い、物事を成し遂げたり、ルールを守って友達と楽しく過ごしたりと、貴重な経験となりました。

お家の人と離れての初めてのお泊りだった子も何人かいたようですが、そんなことを微塵も感じさせない子どもたち。その成長に嬉しさと共にちょっぴりの寂しさを感じた保護者の方もおられたようです。



お泊り保育恒例のお化け屋敷の迷路を抜けると最後の砦…伝説の長老の部屋へ怖いけど勇気を出してグループで力を合わせて挑みます!



長老から宝箱をもらい開けたら花火とアイスクリームが☆夏の夜空に七色の花火が打ちあがりました



さわらび苑

移転改築の進捗状況

前号でご案内しておりますように、放泉会ではさわらび苑の移転改築計画を進めております。

建設予定地はサンチャイルド長久さわらび園の西隣です。法人所有地に加え、二軒のお宅が快く用地を提供して下さったことから、一、〇〇〇坪の敷地が確保できました。十月には家屋解体も終わり、今は広々とした更地になっていきます。来年早々には建設工事を発注したいと考えております。

施設名は「サンシルバーさわらび」とする予定です。四階建ての見晴らしの良い建物で、地震に強い耐震構造です。長方形のモダンな建物ですので、正面（南側）の景色は円形のサンチャイルドとマッチして、銀（シルバー）の街・大田にふさわしいロケーションになると思います。

開苑は、オリンピッククイヤーの二〇二〇年（年号はどうなっているんでしょうか？）早春の予定です。



【建設予定地全景】

茶の心、稲積さわらび庵



稲積さわらび庵の中に一步入ると歴史深い趣と静寂さを感じます。ところどころに『おもてなし』の心配り…迷路のような廊下の先には中庭が見える茶室があり、掛け軸・茶花・釜などが設けてあります。…稲積さわらび庵のお茶席に招かれたお客様は、課外授業でやって来た約30名の長久ゆうゆう学童クラブの子ども達です。子ども達には珍しい佇まいであったと思います。亭主役は、趣味を活かして職員がお務め。お饅頭に、お抹茶、苦手な正座でのお点前を頂く子ども達の屈託の無い感想が…「お饅頭めっちゃ!美味しい」「お茶が苦い!」「足が痛いよ〜」と初体験の子どもさんもありましたが、みんな亭主のお点前に魅入っていました。

後日、長久いきいきクラブの皆さんも稲積さわらび庵での一服を自由に楽しまれた様子が、笑顔の記念写真に収められました。このひと時が初秋の風を感じる静かな一期一会であったと喜び、亭主と客を通して稲積さわらび庵の茶の心が少しでも皆様の中に芽生えていればと思うことでした。



彼岸花が咲く頃、貨物列車が行く!!

「平成30年7月豪雨」により広島、岡山両県のライフラインが切断された為、JR貨物は山陽本線不通区間の長期化に備えて山陰側への迂回運行をされました。山陰線では普段、貨物列車が運転されない区間の為、貨物列車を久々に見ることが出来たり、鉄道ファン（通称：撮鉄）が列車の撮影に長久の沿線にも来られていたそうです。JR貨物は被害を受けた地域の1日も早い復興への願いを込めて「がんばろう岡山」「がんばろう広島」とヘッドマークを掲げ、また車体側面にも同様のメッセージを記したラッピングが施されていたそうです。ゆうイングとチャイルドの側を通過する貨物列車を何気なくただ珍しいと興味本位で見ていた私達、一日も早い復興のための貨物列車だった事を忘れないように鉄道ファンの記録と共に心に残る写真となることでしょう。



編集委員の
つぶやき

実るほど頭が下がる稲穂かな

ゆうイングの西側は“稲穂通り”と名付けられ、その名の通り今年も黄金色の絨毯が広がっていました。サンチャイルドの子どもたちは春に自分たちで植えた稲が実り、下がる稲穂を可愛い小さな手で刈り豊作を喜びました。

さて、ゆうイングの北側では、遷仏法要を終えた楯邸・岩谷邸が整地され、R9も瑞風もしっかり見る事が出来、サンシルバーさわらび（仮称）も着工間近です。4階建てとなれば目線も上へ上へと景色も広がりオーシャンビューとはいきませんが、山陰道の高速も見える賑やかで華やかな景色が待っていると思います。その日を待ち受ける中で、楯邸・岩谷邸、両家の想いを無にせぬよう“ゆりかごから天国まで”常に日々、反省と誠実さの繰り返しで謙虚にステップアップしていきます。実るほど頭が下がる職員かな?…かな?…

(担当：山下照子・竹下豊子・小川 景・佐竹美香)